

本細胞を *in vitro* の実験系のみで使用する場合は、遺伝子組換え生物には該当しません。しかし、本細胞を用いてマウス個体を作製するような実験を実施する場合には、作製したマウスは遺伝子組換え生物に該当します。その場合には、使用機関の遺伝子組換え実験委員会等での承認が必要です。以下の寄託者からの情報を確認してください。

寄託者情報：

EGR-G101 細胞の EGFP 発現には、以下の論文で報告されているプラスミドを使用しています。

Real-time observation of acrosomal dispersal from mouse sperm using GFP as a marker protein. FEBS Lett. 1999 Apr 23; 449(2-3): 277-283.

上記論文では、マウスアクロシンプロモーターに EGFP の ORF とウシ成長ホルモンのポリ A シグナルを持つトランスジーンを有するプラスミドを利用したとなっています。しかし、当該プラスミドを利用した研究者より、ポリ A シグナル配列が異なっているという連絡がありました。当方でプラスミド配列を、シーケンス解析しなおしたところ、ウシ成長ホルモンのポリ A シグナルではなく、ウサギ  $\beta$  グロビンのポリ A シグナルであることが判明しました。